

世界とつながる夢探究アカデミー

壱岐島 PEACE CAMP 2026

世界を知る。世界と話す。世界のためにつくる。
その経験から、自分の未来を考える。



開催

2026年10月17日（土）～18日（日）

@壱岐出合いの村／長崎県壱岐市郷ノ浦町新田触

01 | WHY

「体験格差」を、 「未来をつくる経験」に変える。

家庭の経済状況や居住地域、不登校などの要因によって、子ども・若者の学習機会や進路選択の幅は大きく左右されています。特に離島や地方では、ロールモデルとの出会いや、海外・社会課題とつながる探究の機会が限られています。

中高生が直面している壁

- 地域によって国際交流の機会が少ない
- 海外や社会課題を自分とは遠いものと感じる
- 自分が何をしたいのか分からない
- 自分に何ができるのか分からない
- 学校での学びが社会とどうつながるか実感できない

なかよし学園の教育設計

「世界の話聞かせる」だけで終わらせない

1

世界の現実を知る

2

自分で考える

3

教材をつくる

4

実際に海外で使ってもらう

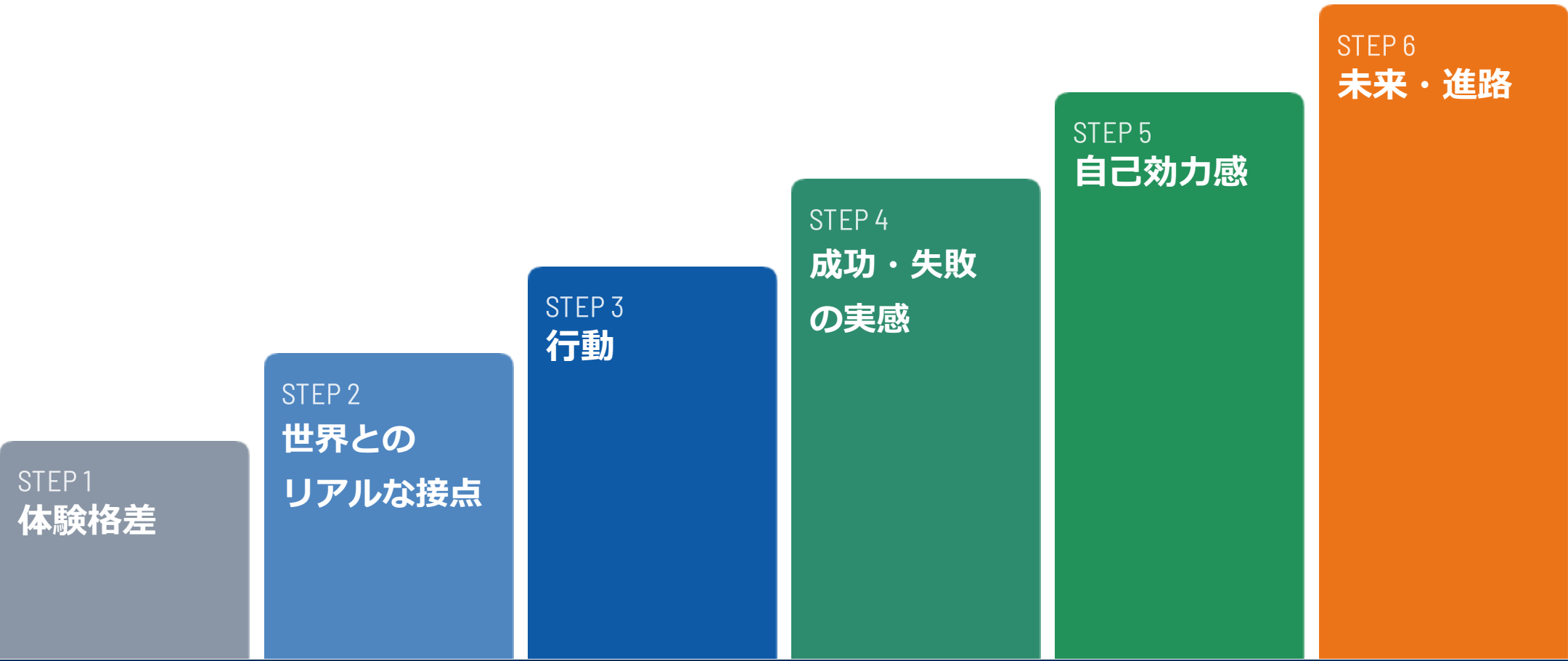
5

現地の反応を受け取る

6

自分の経験として振り返る

子どもの変化の道すじ



この循環によって「**自分にもできる**」という自己効力感を育て、
将来の進路選択へつなげます。

02 | CoRe Loop

学んで終わらない。
世界で使われて、初めて学びが完成する。



2025年度 経済産業省「探究・校務改革支援補助金」採択事業として、全国の学校で「世界とつながる学び」を展開

連携校

50校超

活動国

10カ国以上

制作教材（2025年度）

11,213点

海外実装（2025年度）

512回

※UNESCO / Inclusive Education in Action 掲載事例では Create → Reach → Co-Reflect → Return の循環として紹介

03 | PROGRAM

1泊2日で、 世界から「自分」までを往復する。

**01 世界とのオンライン交流**

ルワンダ、カンボジア、ウクライナ等と交流予定。海外の同世代の声に直接触れる。

**02 世界の現状を知る
実務家講演**

講師：代表 中村雄一
事務局長 中村里英

紛争・貧困・教育課題を、実際の活動写真・映像とともに伝える。

**03 PEACE DISCUSSION**

「平和とは?」「自分にできることは?」正解のない問いを仲間と考える。

**04 自己理解ワーク**

世界の問題だけでなく、自分の「好き」「得意」「大切にしたいこと」を考える。

**05 ウクライナ向け
教育教材制作**

チームで、海外の子どもたちに届ける教材を企画・制作する。

**06 世界に届ける
教材プレゼン**

「なぜつくったのか」「何を伝えたいのか」を自分の言葉で発表する。

**07 Nゲージで
「未来のまちづくり」**

教育・医療・交通・防災・自然・共生など「人が幸せに暮らせるまち」を模型で考える。

**08 夜の交流プログラム**

学校・地域を越えた仲間と、夢や将来について語り合う。

04 | AFTER THE CAMP

キャンプは、世界への入口。

1泊2日の合宿は、教材が海外で使われ、その反応が戻り、自分の進路を考えるまでの長い学びの出発点です。

cam

10月17日～18日

壱岐島 PEACE CAMP

世界を知る／考える／教材をつくる

edit

合宿後

教材ブラッシュアップ

オンライン伴走／夢探究セッション

DO

海外実装

教材が海外の授業で使われる

なかよし学園が海外の現場へ教材を届け、実際の授業で使用

BACK

フィードバック

現地の声が参加者へ戻る

現地の写真・動画・メッセージを制作者本人へ

self

振り返り

「誰に、どんな変化が生まれたか」

自分の行動がもたらした変化を考える

PF

まとめる

夢のポートフォリオ —— 1つのストーリーに

活動記録

制作物

探究プロセス

現地フィードバック

自己変容

次の行動計画

NEXT

進路・未来へ

「自分自身のストーリー」として次の一歩に

総合型選抜

推薦入試

留学

奨学金申請

就職

次の社会活動



日本から届けたものを手にする現地の子どもたち



学びが世界で使われる（中東地域での教育活動）

※夢のポートフォリオは、進路選択や総合型選抜等において、自らの探究経験を言語化する材料となることを目指すものです。特定の入試結果を保証するものではありません。

05 | WHO WE ARE

教室と世界の現場を、
本当に往復できるNGO。

FROM BEING SUPPORTED TO BECOMING SUPPORTERS
支援される側から、支援する側へ。

なかよし学園が目指すのは、誰かを一方的に「助ける」国際協力ではありません。日本の子ども、海外の子ども、それぞれの持つ力を使って互いの学びや未来を支える。壱岐島 PEACE CAMP も、その循環の一部として実施します。

歩みと実績

- 2007

国内での学習支援を開始。いじめ・不登校等の子ども支援を継続
- 2013

カンボジアを皮切りに、海外教育支援を拡大
- 2019

特定非営利活動法人として法人化
- 2024

壱岐市と包括連携協定を締結
- 2025

経済産業省「探究・校務改革支援補助金」採択。
全国50校超の学校と「世界とつながる学び（CoRe Loop）」を展開
- UNESCO

Inclusive Education in Action に、広島市立広島特別支援学校との Return Loop 型実践が事例として掲載



世界の現場で

アフリカ・アジア・中東等の10カ国以上で、難民キャンプでの教育・職業訓練、元子ども兵支援、防災教育、紛争地域での平和教育などを実施。

主な活動国（一部）

- カンボジア

ルワンダ

コンゴ民主共和国
- 南スーダン

ウガンダ

ケニア

シリア
- ネパール

東ティモール

ウクライナ

EUROPEAN AGENCY
for Special Needs and Inclusive Education

In partnership with

unesco

HOME | BACKGROUND | RESOURCES | CASE STUDIES | ABOUT US

Home / Case Studies / From being supported to becoming supporters: A return-loop inclusive learning model linking a Japanese special needs school and children in conflict-affected countries

From being supported to becoming supporters: A return-loop inclusive learning model linking a Japanese special needs school and children in conflict-affected countries

Overview

Aims

Background

Issues Addressed

Implementation

Key Outcomes & Impact

Evaluation

Future Developments / Sustainability

Materials available, links

OVERVIEW

This case study describes an inclusive education initiative at Hiroshima City Special Needs School, implemented with NPO Nakayoshi Gakuen Project and partner communities in conflict-affected and low-resource countries. Learners with disabilities in Japan co-create educational and peace-related materials that are shared with children, such as former child soldiers, refugees and children with disabilities, abroad. Through a cyclical return-loop of creation, sharing, feedback and redesign, both groups move from being seen only as recipients of aid to becoming active supporters of others, strengthening agency, dignity and inclusive school cultures.

Theme

Curriculum development
Learning environments
Professional development

UNESCO / Inclusive Education in Action 掲載事例
“From being supported to becoming supporters”

特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

06 / 08

06 | EXPECTED CHANGE

「世界って遠い」から
「自分にもできる」へ。

BEFORE

- 「海外の問題は自分には関係ない」
- 「自分にもできることなんてない」
- 「将来やりたいことが分からない」
- 「勉強する意味が分からない」



AFTER

- 「世界に知っている人ができた」
- 「自分の教材が誰かに届いた」
- 「自分の得意なことも社会で役に立つ」
- 「もっと知りたい、やってみたい」
- 「この経験を自分の進路につなげたい」

参考 | 2025年度「世界とつながる学び」参加児童生徒の事前・事後調査（平均値）

自己効力感 3.12 → 3.66 学習意欲 3.06 → 3.58 人権感度 3.02 → 3.47

本事業が育てたいもの

- | | | | |
|-------|------|-----|-------|
| 自己効力感 | 探究力 | 対話力 | 課題発見力 |
| 他者理解 | 国際理解 | 行動力 | 自己理解 |

子ども支援を、一日楽しかったという
“思い出”だけで終わらせない。

07 | OVERVIEW

壱岐島 PEACE CAMP 2026 開催概要

日程	2026年10月17日（土）～18日（日） 1泊2日・現地集合 17日 14:00受付開始・14:30開始／18日 12:00解散
会場	壱岐出合いの村 長崎県壱岐市郷ノ浦町新田触
対象	全国の中学1年生～高校3年生
定員	30名（先着順）
参加費	中高生 無料 ロート子どもの夢基金の助成により、宿泊費・食費・教材費・研修費が無料 壱岐市外の中高生はフェリー交通費 5,000円を補助
保護者同伴	可 大人 15,000円（宿泊費・食費・研修費込み） 小学生以下の兄弟姉妹 7,500円
募集期間	2026年9月25日～10月7日 ※定員に達し次第終了
申込	Googleフォーム（右のQRコードから） https://forms.gle/NPBPK8u76NwzGLJi6

参加申込フォーム



<https://forms.gle/NPBPK8u76NwzGLJi6>

お問い合わせ

特定非営利活動法人
なかよし学園プロジェクト
担当：中村 里英
peace.office@nakayoshigakuen.org

安心して参加するために

- ・主催者側で保険に加入します
 - ・食物アレルギー・配慮事項は事前申請で対応します
 - ・写真・動画撮影およびSNS掲載は同意の上で行います
- ・男女別宿泊に対応します
 - ・持病・服薬は各自で管理をお願いします（事前相談可）

報道関係者向け | 事業説明文（引用可）

「壱岐島PEACE CAMP 2026」は、世界10カ国以上で教育・平和活動を行うなかよし学園プロジェクトが実施する中高生向け探究プログラムです。世界の現実を知り、自ら教材を制作し、海外での実装とフィードバックまで経験することで自己効力感を育み、将来の進路選択につなげます。

主催

特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

後援

壱岐市・壱岐市教育委員会等（申請予定）

助成

ロート子どもの夢基金（採択事業）

HP

<https://nakayoshigakuen.org>

